



光陵八年生の思い出

会長 齋田 幸 忠

プールとクラブ室の完成も間近に迫り、校舎の廻りと中庭の整備も着々と進んで居ります。落成式の日取りも近日中に決まると聞かされ、長い間悩み、そして苦しんで来た校舎の問題にや。と終止符が打てるのかと思つと、誠に感慨無量です。

一団生の長男、三団生の長女、ともに此の立派な校舎を見ずに卒業して行きました。彼等の学んだ立野の校舎は古い木造建築で、雷の日には教室の中に雷が積つた事もあつたそうです。運動場は全然無く園大附属横浜小中学校のグラウンドの隅を借りて体育の授業を行つて居りました。生徒が昼休みにグラウンドへ遊びに出ると小学生が来て「団長のお兄ちゃん達あっちへ行って」と、追い払われる事も屢々あつたそうです。長男はよく「あの生気なソ、リどもの顔の顔が見たい」とゴヤいて居りました(当時私も附属の父兄でした)。

教育環境の悪い点では先生方は勿論ですが、生徒達もだいが苦労したようです。併し、不思議な事に長男も長女も毎日楽しそうに学校に通つて居りました。施設はゴロでも生徒達を引きつける「何か」があつたのだと思います。多分同一流の先生方が揃つて居たせいでしょう。

当時は生徒数が少なかった。たので生徒一人一人に目が届き、生徒が少しでも手を抜いたりするとすぐ先生にバレてします。たそうです。此の様にき

昭和48年7月20日発行
第10号
発行所 光陵高校PTA
編集者 江 原 幸 忠 会 長
印刷所 たへタイプ印刷

めの細い教育が行き届いて居りましたので、従つて師弟の関係も理想的でした。

私が八年間で一番印象に残つて居りますのは、第一回(昭和四十一年)の体育祭です。生徒数僅か九十八名、先生は校長支さめて七名、これでは運動会も開けませんので球技大会という名で附属の体育館とグラウンドを借りて生徒・先生・父兄の三者でバスケットボールとバレーボールの対抗試合をし、最後に生徒対先生+父兄とのソフトボールの試合を行いました。私も若さ々を買われて四番でサード、校長先生はケガでもされると困るので八番でライトノ。試合は先生方の闘志溢れるプレーと生徒チームの思い遣りのあるプレーで我々が逆転サヨナラ勝ちをしました。勝願しのランナーがホームベースを踏んだ瞬間齋田先生(体育)のかけ声で校長先生の胸上げが始まり、生徒と先生そして勿論父兄も加わりました。夕やみの迫る校庭で校長先生の体が二度三度と大きく舞いました。胸上げをして居る生徒・先生・父兄の顔はにこやかでした。が其の眼の底には、「どんなに付らくても校長を中心に相互に頑張ろうぜ」という決意がみまぎって居りました。

此の美しい光景に接し、思わず眼がしらが熱くなったのを今でもハッキリと覚えて居ります。

あれから七年の才月が経ちました。生徒数も先生方も大幅に増え、他の県立高校と同じ大規模に成りました。併し、幸いにして立野時代の先生方が健在です。どうか先生方が中心になって光陵高校創立以来の「きめの細い教育」、「理想的な師弟関係」、「理解ある父兄」、此の三つの美しい伝統をいつまでも受け継いで行ってもらいたいと思います。

虫嫌いと胎教

51組 穴 澤 生 江

広報の係りの一員として応募原稿の集りが少なかつた責任上、私も何